

追 想 寸 片

未知の先輩森下さんの死は、偉大な淨瑠璃殉教者をボツカリ奪はれたやうな腹立しさと云ひやうもない寂しさを薙々と痛感させた。計らずも絶筆となつた「引窓と橋本」を再讀してその緻密な名評に敬惜の念を禁じ得ない。

不幸にして個人的には未見であつたが、其の文章を通じて感じる批評家としての氏の個性には、圓熟した清高さと豊かな含蓄が滋味深く脈動してゐたと思ふ。

換言すれば氏は人格的で、透徹した睿智を持つ綿密深緻な

批評家であつた。

しかも其れは尖鋭な理智の亂舞ではなく、その基底に熾烈な淨瑠璃愛を秘めた高度の情理性が貫流してゐた。

故人の名藝に通曉した氏が廣大な見聞と、洗練された心理把握によつて論及した、幾多の淨瑠璃批評は、啓發的な有意義性を持つと同時に、淨瑠璃の眞諦に味倒する的確な深鋭性があつた。

至魂、徹心、身を以つて全生涯を淨瑠璃道に精進された森下先輩の御冥福を靜かに祈りしたい。

(内田富太郎)

森下氏の追悼には同氏の批評文初め 一般の批評を語る人に讀ませる事

本誌同人 岡田 蝶 花 形

森下氏が逝つた。あの華々しき引窓と橋本の名評を最後として森下氏は逝つた。

さて同氏の追悼には何をしたらよいか、それはあらゆる努力をして同氏の書いたものを語る人に再認識させる事だ。さ

うだ、それより他にはない。かう思つてこんな長たらしい題をつけた。

森下氏は決して或る個人を攻撃する爲に書いてゐるのではない。それを同氏の文は頭から津大夫を悪く云ふ爲に書いて